

コンサルタントの 現場から

(株)ジェムコ日本経営 高橋 功吉

「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

第246回 製造実習へ込めた思い

製造実習

製造業各社の新入社員教育の内容をお聞きすると、大半の日系企業では、事務部門に配属予定の社員も含めて、工場での製造実習を行っている。これは日本独特のものとも言えるが、その目的は、メーカーの原点であるものづくりを理解することにある。品質確保の重要性、標準作業がなぜ決められているのかといったものづくりの基本を実際の製造現場に従事することで学ばせたいという意向がある。その経験は、間違った作業ができない設計、作業性を考慮した設計、ムダな作業をさせないための資材の梱包形態や納品形態など、製造現場を支える業務につながる。日本ならではのものづくりを支えてきた教育システムだ。

メーカーとしての基本を理解する

しかし、形だけの製造実習になっている企業も多い。単に経験するためというだけでは、何も身に付かず、「大変だったね」で終わってしまう。製造実習では、製造現場を体験するだけではなく、ものづくりの基本を理解できたかが鍵なのだ。なぜ5Sが重要なのか、なぜ基本技能を習得しないといけないのか、なぜ標準作業ができるようにトレーニングするのか、これらは、バラツキのない品質を確保すると共に、決まったタクトタイムで生産するための基本であり、原価管理の基本になる。まさにメーカーとしての基本を理解するということであり、これらは、

製造部門を支える間接業務を行なう際の基本になるからだ。

一体化した風土の醸成

さらに、日頃から製造部門と間接部門が一体となった風土を築くことが大切だ。このような風土ができている企業は、生産が追い付かない時は、間接部門が生産の応援に製造現場に入ることが当たり前になっている。これは、全員がメーカーは製品を製造してお客様にお届けできなければメーカーの責任が果たせないと思っているからだ。

しかし、同じ製造業でも、間接部門が生産応援に非協力的な企業もある。これは社員全員がメーカーとしての役割を自分達のものとして捉えていない企業だ。

もともと、創業時は、開発も製造も営業も一人で行っていたはずだ。実際、家族経営をされている小さな企業は、担当は決まっても、全員で製造したり、全員で販売したりと状況に応じて皆が協力している。それが、規模が大きくなるにつれ、あなたは設計、あなたは製造、あなたは営業というように分業化していくが、いつの間にか組織に壁ができ、他の仕事を理解しようとせず、お互いに協力しようということがなくなるとこのような企業風土になる。このような企業はお互いに補完する

【第8面に続く】

<執筆者プロフィール>



高橋 功吉 (たかはし こうきち)

(株)ジェムコ日本経営 / 常務理事 グローバル事業担当

大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMCI(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士

太陽光発電設備を10年間レンタルし その後は設備を譲渡します^(※)

※レンタル期間終了後にお客様に購入選択権有。ご購入価格についてはお問い合わせください。

——— もちろん初期投資も一切不要 ———

自社工場の屋根で電気を自家発電しませんか?

- ✓ 太陽光発電設備を約10年間(10年~13年)、取り付け費やメンテナンス費込みで提供するエスコ方式です。
- ✓ 毎月の費用は、下がった電気代の中から10年間いただくだけです。



これまでのタイ国内の実績(お取り付け企業様)やご提案書につきましては、下記までお問い合わせください。
BOI恩典を使用したご購入についても、BOI専門のコンサルタントがご相談をお受けいたします

バンコク週報コンサルティング事業部

E-mail: info@bangkokshuho.com

TEL: 02-632-9179

担当 臼井(うすい)、高井(たかい)、ティティパンまで

WEST GROUP
WEST International(Thailand)Co.,Ltd.

【第7面から続く】

ということができず、どの部門がやるべきかわからない組織間の仕事は放置されると共に、全員の能力が最大限に活かさないことにつながる。

たまたま、生産応援という事例を書いたが、これは生産応援に限らない。日頃から組織を超えて協力しようという姿勢が大切なのだ。それが組織の壁を越えた活力ある企業風土を醸成す

ることになる。

さて、あなたの企業では、組織の壁はないだろうか。生産応援という話が出ても、自分達も忙しいのだと言って、メーカーとしての一番の使命を放棄していないだろうか。製造実習が形だけの企業なのか、その真意を理解するための製造実習にできているのかは、こんなところにも表れるのではないだろうか。

パーツの相場見通し

Dealer's insight

山崎 浩幸

みずほ銀行

ドルパーツリスクオフから上昇するも上値の重い展開

2月5日、タイ中銀が利下げを発表するも、反応は限定的で30.90台へ急落し、6日は31付近でスタート。タイ商務省が1月のCPIを発表し、前年同月比1.05%上昇と市場予想対比で強い結果となった。一方でタイ商工会議所大学が発表した消費者信頼感指数は67.3と2010年以降で最低となったが、相場への反応は限定的だった。ところが、中国の対米関税引き下げ報道を好感し、東南アジア株式市場が軒並み上昇すると、パーツは売り優勢の展開に31.10付近へ上昇し、海外時間に入ってもその流れが継続し結局31.20付近まで上げ足を伸ばした。

7日はタイ憲法裁判所が1月に上下両院で実施された予算案採決において不正投票があったことを理由に採決のやり直しを命じる決定を下したため、予算執行が更に遅延するという懸念から、ドルパーツは海外時間にかけて31.40近くまで上昇。10日はタイ休場の中で、31.30を挟んだ値動きが続いた。

11日はタイ時間にパーツ買い戻しが入り31.20付近まで戻されるも、海外時間に入ると再び31.30付近まで上昇、往って来いの展開。12日は、新型コロナウイルス関連で、拡大の勢いがやや弱まったことなどを受けて、パーツはパーツ高推移となり、31.10台前半へ下落している。

ドルパーツは一旦は調整局面か

新型コロナウイルスによる死者、感染症例はすでにSARSを越えており、その拡大が止まらない。先週はシンガポールの会議に参加していた英国人が感染した事例等、中国のみならず、世界的に拡大しつつある。一方、中国での感染症例は増加しているものの、その増加幅に歯止めがかかりつつあり、現在が正にピークといったようにも受け止められる。一旦は新型コロナウイルス関連によるパーツ安は小康状態を保てるのではないかとみる。今後は、中国経済への影響がどのくらいであったのか、サプライチェーンの分断が世界経済へ与えるインパクトがいかほどであったのか、タイへの観光客への影響がどのくらいになるのか一などが明らかになるにつれて、本年度の相場の行方がより分かってくるのではないかと考える。一旦は調整局面ということで、31台前半での値動きが続きそうだ。

(2月12日 13:00)

エンジニアのための技術基礎研修

タイ人エンジニアをどう育てたらいいかわからない?

タイ人エンジニアの社内教育お任せください。



- ✓ タイ人大学講師によるタイ語での分かりやすい出張講義です。
- ✓ 貴社のエンジニア・テクニシャンのスキルがレベルアップします。
- ✓ テキストは日本語、タイ語、英語の3言語をご用意。



「To-Beエンジニア試験」「To-Beメンテナンス技術試験」

タイ人エンジニアの本当のレベルがわからない?

タイ人エンジニアの基礎力診断お任せください。



- ✓ 日本で長年の歴史。東証一部上場企業を含む600社以上が受験。
- ✓ モノづくりに必要な技術基礎知識を問うタイ語(英語)の試験問題。
- ✓ 技術基礎力を「見える化」。昇進・入社試験等で適正人材を確保できます。

1969年より日本で技術系通信教育と技術研修を通じて企業の人材育成を支援してきた工学研究社が「To-Be エンジニア試験」「To-Be メンテナンス技術試験」、および「To-Be エンジニア研修テキスト」を作成しています。

工学研究社ホームページ

「To-Beエンジニア試験」

http://www.cogaku.tokyo/tobeEX/tobe_1.html

「To-Beメンテナンス技術試験」

http://www.cogaku.tokyo/tobeMT/tobe_mt1.html

お問合せ先

Bangkok Shuho International Co., Ltd.

Charn Issara Tower 1st Fl., 942 / 43 Rama 4 Rd., Suriyawongse, Bangrak, Bangkok 10500

Tel: 02-632-9179 Fax: 02-632-9354-5

E-mail: info@bangkokshuho.com 担当: オイル(日本語・タイ語)、臼井